

平成 22 年度中間決算の概要について

〔平成 22 年 12 月 16 日〕
〔社〕第二地方銀行協会

会員行の平成 22 年度中間決算（単体）の概要は以下のとおり。

（注）計数は平成 22 年 9 月末時点の会員行 42 行ベース。

1 . 損益概況（業務純益：1,784億円、経常利益：879億円、中間純利益：555億円）

平成 22 年度中間決算の業務純益(1,784 億円)は、国債等債券関係損益の増益や、一般貸倒引当金繰入額が極めて少額になったことを主因に、前年同期比 + 227 億円、+ 14.6%の増益となった。

経常利益(879 億円)は、個別貸倒引当金繰入額の大幅な減少を主因に同 + 335 億円、+ 61.6%の増益となり、これを受けて中間純利益(555 億円)も同 + 71 億円、+ 14.7%の増益となった。

2 . 業務純益の状況

(1) 資金利益（4,779 億円、前年同期比 + 4 億円、+ 0.1%）

資金利益(4,779 億円)は、ほぼ横ばい(前年同期比 + 4 億円、+ 0.1%)となった。

この内訳をみると、預貸金収支(3,949 億円)は、貸出金残高（平残）は増加したものの、預金残高（平残）が増加したことおよび預貸金粗利鞘が縮小したことから、ほぼ横ばい（同 4 億円、0.1%）となった。

また、有価証券利息配当金(863 億円)も横ばい（同 + 0 億円）となった。

(2) 役務取引等利益（324 億円、前年同期比 + 40 億円、+ 14.1%）

役務取引等利益(324 億円)は、投信窓販業務手数料および保険窓販業務手数料の増加等により、前年同期比 + 40 億円、+ 14.1%と、中間決算ベースで、平成 19 年度中間期以来 3 年ぶりの増益となった。

(3) その他業務利益（354 億円、前年同期比 + 129 億円、+ 57.3%）

その他業務利益(354 億円)は、国債等債券売却益の増加を主因に、前年同期比 + 129 億円、+ 57.3%の増益となった。

(4) 経費（3,668 億円、前年同期比 1 億円、0.0%）

経費(3,668 億円)は、横ばい（前年同期比 1 億円、0.0%）となった。

3. 不良債権処理の状況

不良債権処理額(612 億円)は、取引先の健全化に向けた取組みを一層強化したことから、前年同期比 316 億円、 34.1%の大幅な減少となった。

また、金融再生法開示債権(1兆7,057 億円(破産更生等債権、危険債権、要管理債権))は、破産更生等債権が最終処理の進捗および倒産件数の減少を主因に減少したことから、前年度末比 588 億円、 3.3%の減少となり、開示債権比率も3.88%と、同 0.12%ポイントの低下となった。

4. 経常利益および中間純利益の状況

経常利益(879 億円)は、業務純益の増益および臨時損益の赤字幅縮小から、前年同期比 +335 億円、 +61.6%の増益となった。なお、臨時損益(904 億円の赤字)の赤字幅縮小(同108 億円の赤字幅縮小)は、個別貸倒引当金繰入額の大幅な減少によるものである。

この結果、中間純利益(555 億円)は、同 +71 億円、 +14.7%の増益となった。

5. 単体自己資本比率(自己資本比率:10.33%、Tier 比率:8.04%)

単体自己資本比率(10.33%)は、自己資本額が中間純利益の増益等から増加したこと、リスク・アセットは法人向け貸出の減少を受けて微減となったことにより、前年度末比 +0.22%ポイントの上昇となった。

また、Tier 比率(8.04%)は、同 +0.27%ポイントの上昇となった。

6. 預金および貸出金(末残)

(1) 預金(57兆627 億円)

預金(57兆627 億円(末残))は、前年同期末比 +9,126 億円、 +1.6%の増加となった。預金者別にみると、要求払預金を中心に一般法人預金および個人預金とも増加した。この間、外貨預金は為替円高を背景に引き続き高い伸びとなった。

(2) 貸出金(43兆3,739 億円)

貸出金(43兆3,739 億円(末残))は、前年同期末比 +2,698 億円、 +0.6%のほぼ横ばいとなった。

以上